

2009年1月28日

家庭用燃料電池「エネファーム」の販売開始および  
普及に向けた共同宣言について

東京ガス株式会社  
大阪ガス株式会社  
東邦ガス株式会社  
西部ガス株式会社  
新日本石油株式会社  
アストモスエネルギー株式会社

東京ガス株式会社（社長：鳥原 光憲）、大阪ガス株式会社（社長：尾崎 裕）、東邦ガス株式会社（社長：佐伯 卓）、西部ガス株式会社（社長：田中 優次）、新日本石油株式会社（社長：西尾 進路）、アストモスエネルギー株式会社（社長：久内 幸二郎）の6社は、2009年度から家庭用燃料電池「エネファーム」（2008年6月から統一名称）の販売を世界に先駆けて順次開始いたします。  
（家庭用燃料電池に関する情報は、別紙をご参照ください。）

本日、6社はエネファームの販売開始にあたり、共同メッセージ「エネファームで環境立国ニッポンへ」を掲げ、各社社長による共同宣言を行い、今後の普及促進活動を進めてまいります。このメッセージには、エネファームが低炭素社会を実現する柱として普及し、日本が環境立国として世界をリードする存在となることへの思いを込めております。

6社はこのメッセージの下、一丸となって、エネファームが将来の日本における住宅でのスタンダードになることを目指してまいります。

今後、6社は、国の見通しである2030年における累計250万台の普及<sup>1</sup>に向け取り組みを進め、地球環境問題の改善に貢献してまいります。

1：長期エネルギー需給見通しの家庭用燃料電池を含めた家庭用コージェネレーションシステムの普及台数

なお、家庭用燃料電池は、家庭部門における温暖化対策の切り札として期待されており、1990年代からメーカー各社やエネルギー事業者が研究開発に取り組んでまいりました。また、2002年度から国、メーカー各社、エネルギー事業者による実証研究が進められ、2005年度からは国による定置用燃料電池大規模実証事業が実施され、多くのご家庭でエネファームが稼動<sup>2</sup>しております。

エネファームは自宅で発電し、その際に発生する熱をお湯として利用することで、一次エネルギー利用効率を70～80%<sup>3</sup>と高めております。大規模実証事業における実使用環境下においても高い省エネルギー、省CO<sub>2</sub>効果を発揮することが確認<sup>4</sup>されており、CO<sub>2</sub>削減に向け我が国が今後重点的に取り組むべき21の技術を選定した「Cool Earth-エネルギー革新技术計画<sup>5</sup>」の一つにも選定され、今後の普及が期待されております。

- 2 : 2008年度末までに3,307台設置・稼動予定。
- 3 : 出典「財団法人新エネルギー財団『わが家のハッピープロジェクト』」
- 4 : CO<sub>2</sub>削減量（対従来システム比）1,160kg/年（平成18年度設置分実績値）。これは、約2,150m<sup>2</sup>の森林が吸収する量に相当。出典「財団法人新エネルギー財団『わが家のハッピープロジェクト』」
- 5 : 世界全体の温室効果ガス排出量を現状に比して2050年までに半減する長期目標を実現するために、経済産業省が発表した我が国が取り組むべき21の革新的技術開発

## 西部ガス株式会社

### < 製品外観 >



< パナソニック株式会社製 >

### < 製品概要 >

メーカー		パナソニック株式会社製
性能	発電出力	300W～1kW
	定格発電効率	33% (HHV) 37% (LHV) 以上 <sup>*1</sup>
	定格熱回収効率	47% (HHV) 52% (LHV) 以上 <sup>*1</sup>
	貯湯タンク容量	200
寸法 高さ×幅×奥行(mm)	燃料電池ユニット	860×780×400
	貯湯ユニット	1,883×750×480
燃料		都市ガス13A

\*1：1kW発電時

< 発売時期 > 2009年6月1日

< 価格（本体＋リモコン） > 34万6千円（税込み）

< 初年度販売目標台数 > 100台

< 省エネルギー性と環境性 >

従来システム<sup>\*2</sup>と比べて、一次エネルギー消費量は約33%、CO<sub>2</sub>排出量は約45%削減できます。当社モデルケース<sup>\*3</sup>によるお客さまの年間CO<sub>2</sub>削減量は約1.3トンで、約2,800m<sup>2</sup>のブナ森林が1年間に吸収する量に相当します。

\*2：電気は火力発電所から供給し、熱は当社が供給する都市ガスを用いた給湯暖房機から供給する方式。発電1kWあたりでの比較。

< ガス料金 >

名称	家庭用コージェネレーションシステム契約（選択約款）
概要	<p>（2008年11月1日実施）</p> <p>当社は、昨年11月1日より「家庭用コージェネレーションシステム契約」を家庭用燃料電池にも適用できるようにいたしました。既存の家庭用選択約款の中でも最も安価な料金水準でガスをご使用いただくことができます。</p> <p>モデルケースのお客さまが家庭用燃料電池を設置された場合、導入いただく前<sup>*4</sup>と比べてガスおよび電気料金の合計額が、年間約5～6万円割安になります。</p>

\*3：戸建住宅、4人家族、厨房・給湯・ガス温水床暖房・浴室暖房乾燥機をご使用のお客さま

\*4：適用料金：床暖房契約、浴室暖房乾燥機割引と比較した場合